

一滴の水

鳥栖市

橋本きん

九州鳥栖光明会幹部橋本栄次氏夫人

私が三十七歳の時、早岐の大念寺でのことでした。その頃私は妊娠四ヶ月で、少し身体がおかしいと思いましたが、切角別時に参加してもよいとの主人から許可が出ましたので、余り気にもせずにお別時に着きました。導師は藤本浄本上人でした。別時が始まる時から出血がずっと続いて居りました。私がお念仏いたしますと何と如来様がニコニコなさって嬉しくて堪りません。世の中にこれ程の嬉しい事は外にありません。然し、一度はどっと血の固まり様のものが下りました。それでも心は軽安で楽しく、手の舞い、足の踏むところを知らずとでも申しますか、帰る時はすっきりしておりました。このこと誰にも隠して居りましたので、

一緒について来た者も全く知りませんでした。それで寺の裏山に百段位の石段があり、皆さんと登ってみませんかと勧める人もあり、遂にそれを登りましたが、後で腰が少し痛い位で何の事もありませんでした。

その後、家で洗濯をしておりますと、水道の水滴がぼとんと落ちる音が、地球を一廻りする様に感じられ心が広く広くなり、私の心は宇宙に遍満していると思ひ、向いの山が自分の心の内に観えるようになりました。この事を何の気無しに主人に申しますと、主人は顔色を変えて腹を立てました。女の癖に生意気な、それは上人方のお話を聞いてその様に思うのであろうと申しますので、もうその様な心境は主人の前では決して申しませんでした。その後笹本戒浄上人が鳥栖の光明会館にお見えになった時は、私が上人のお部屋に這入ろうとしますと、上人と主人との話が聞えて来ました。主人は上人に、内の家内は女の癖に生意気なことを申します。之々の悟りを得たようなことを申しますが、上人方のお話の受売りなのか、実際の生活や、やっている事はなっておりますと申し上げております。上人は「お宅の奥さんは前世は禅宗の修行をされました。それでその様に悟りが早いのです。悟りを得たからと言ってすぐそれが実行に現れるとは限りません。次第とお育てを頂きますと道徳の足も立つ様になって参ります」云々と言う様なお話をなされておられました。

ある時、笹本上人にお逢いしますと、手を叩かれて、「奥さんこれ解りますか？」とお尋ねになりますので「ハイどうやら」と申しますと、上人は「あなたの悟りは八畳の部屋にランプをつけた位の悟りです。若しあなたが一週間唐沢山で不臥念仏精進なさると大きな悟りが開けますがね!!」と申されました。(全集上巻一五